

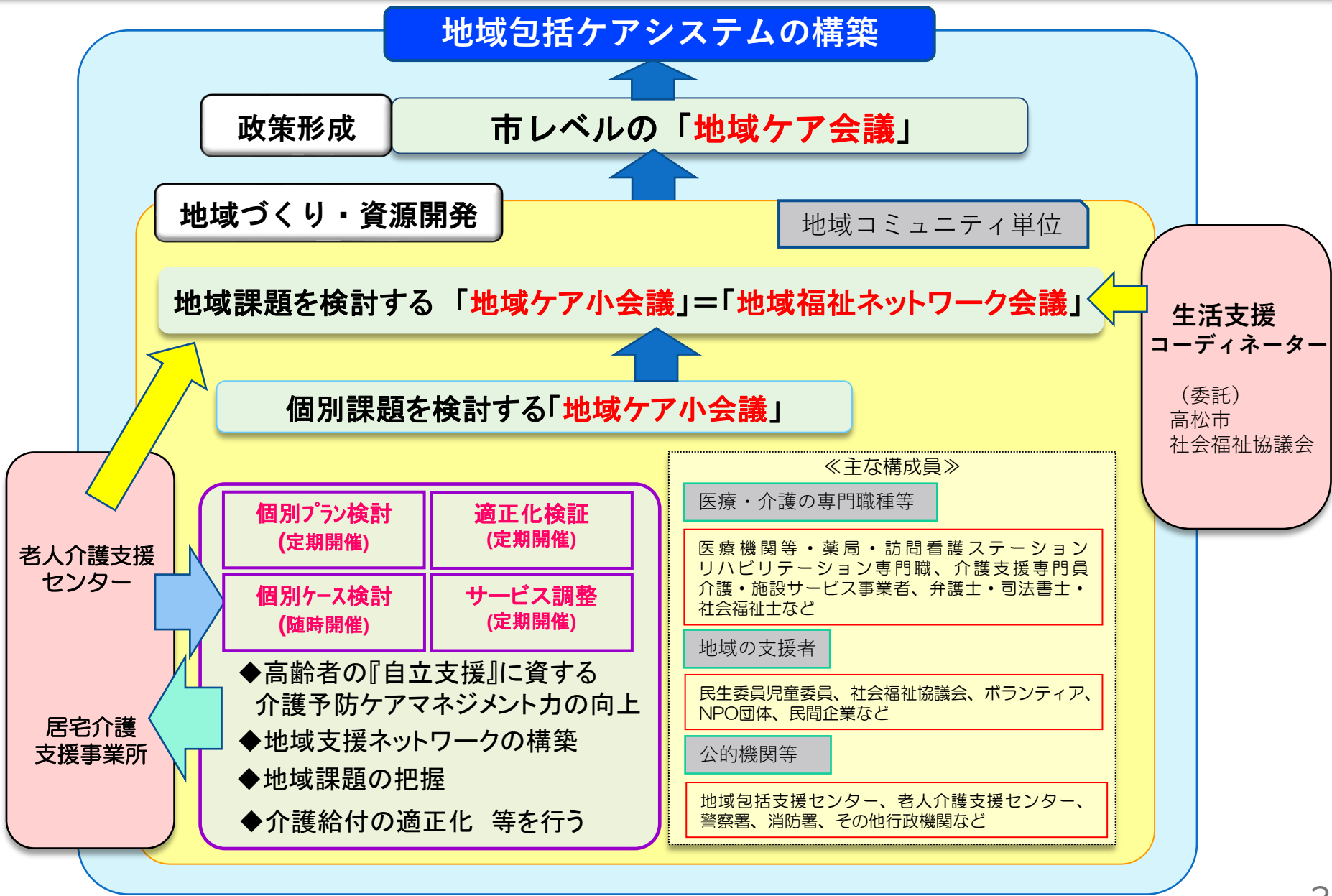
地域ケア会議

高齢者が住み慣れた地域で
希望を持って、自分らしく安心して
暮らし続けられる地域づくり

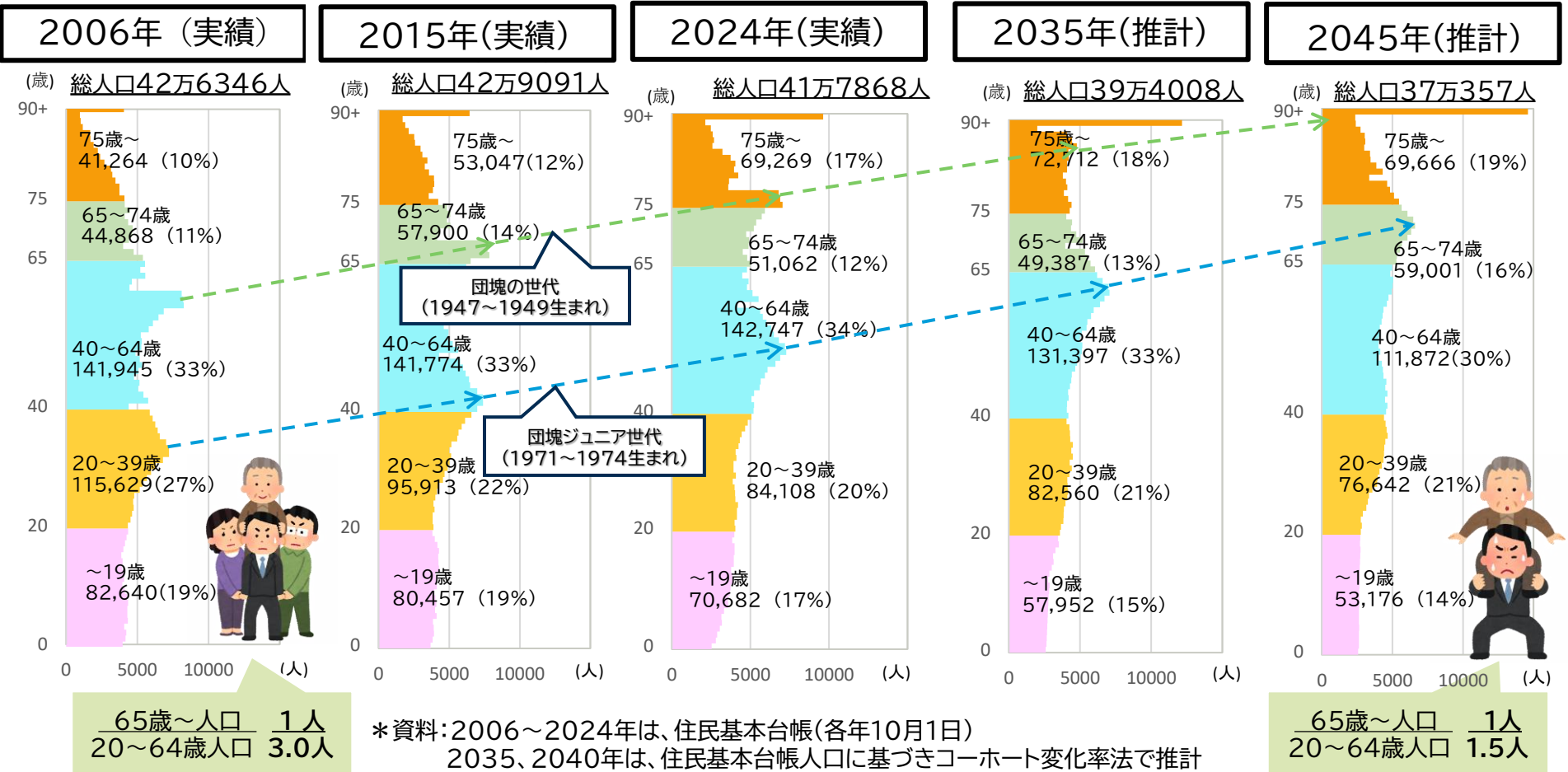
高松市地域包括支援センター



高松市における地域ケア会議と地域ケア小会議について



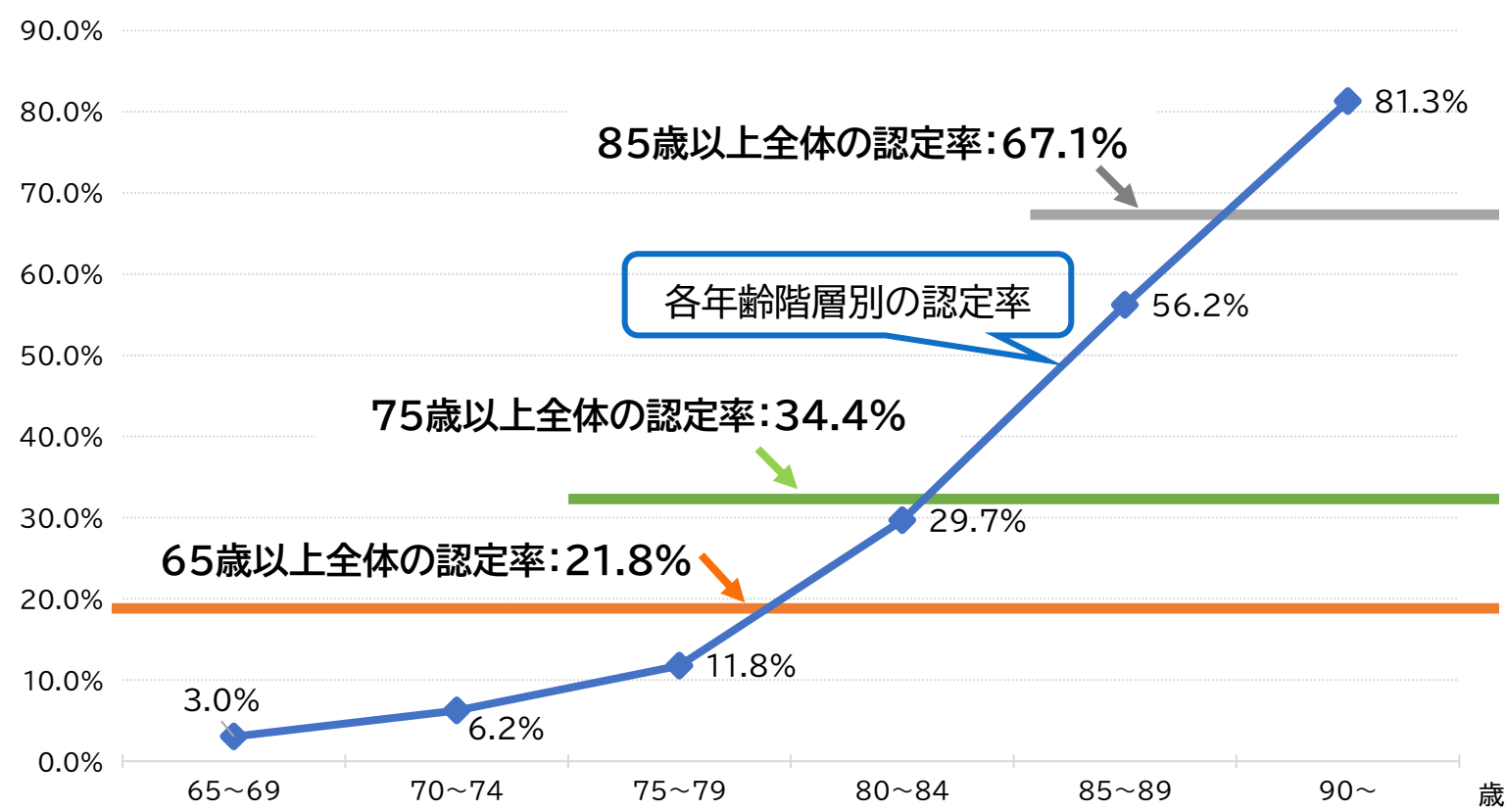
人口ピラミッドの変化（2006年～2045年）



騎馬戦型 肩車型社会へ

本市最大の人口集団である団塊ジュニア世代が、全て65歳以上の高齢者になる2045年に高齢化率は34.7%となり、一人の高齢者を1.5人の若者で支える「肩車型社会」となる。さらに、75歳以上人口は2055年まで、85歳以上人口は2060年まで増加傾向が見込まれている。

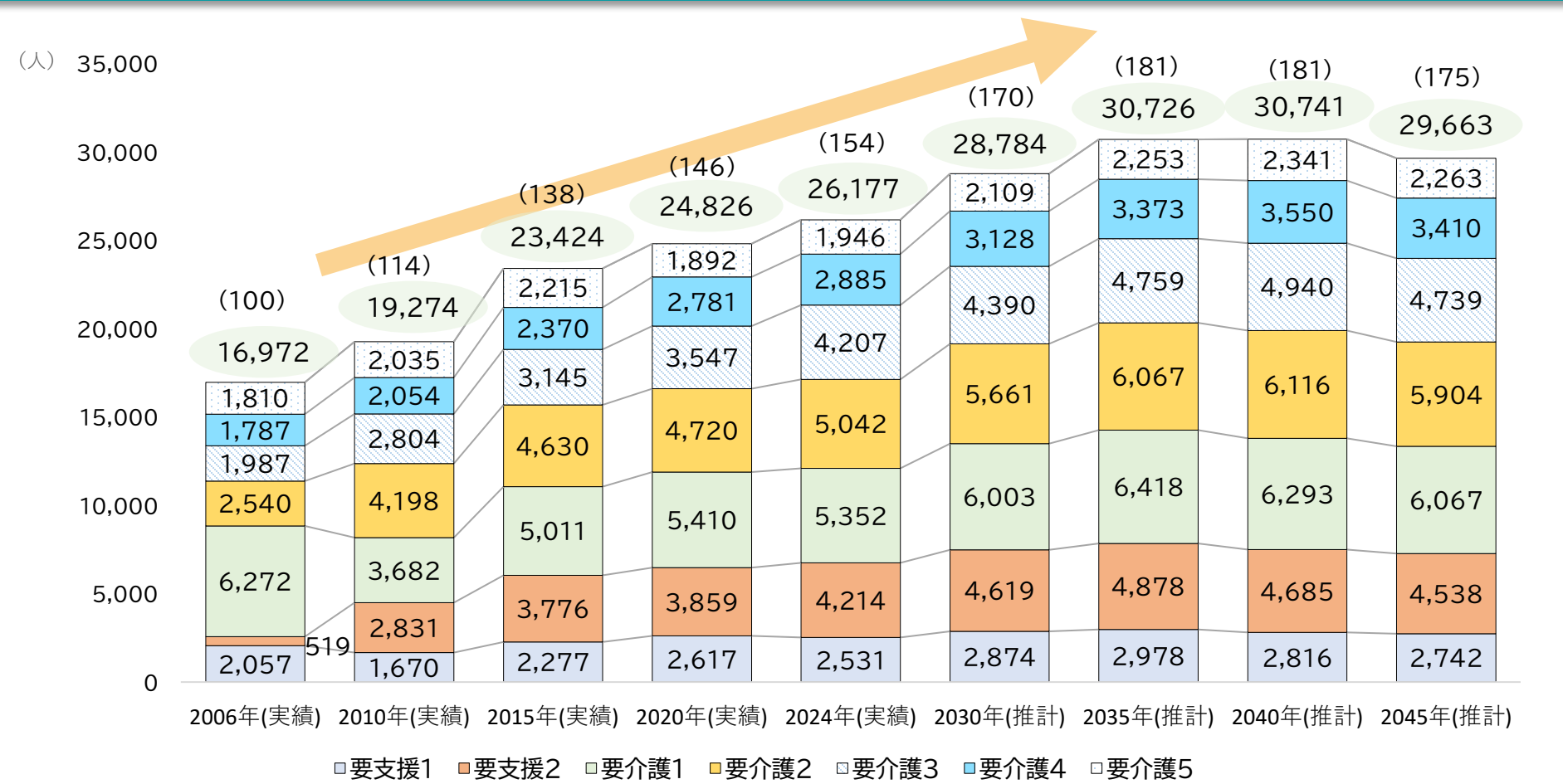
年齢階級別の要介護認定率（2024年実績）



＊資料: 2024年9月末日現在認定者数、2024年10月1日現在第1号被保険者数

65歳以上の高齢者全体の要介護認定率は21.8%、75歳以上の後期高齢者は34.4%、85歳以上に限ると67.1%まで上昇する。
後期高齢者や85歳以上人口の増加は、要介護(要支援)認定者数に大きく影響する。

要介護（要支援）認定者数の推移（2006年～2045年）



* ()の数値は、2006年を100とした場合の指数。 * 2006年の要支援1は、経過的要介護を含む。
* 資料：厚生労働省「介護保険事業報告」(地域包括ケア「見える化」システムより)各年9月末日現在
2030～2045年については、地域包括ケア「見える化」システムによる推計値

本市の要介護(要支援)認定者数(うち第1号被保険者数)は、2040年頃まで全ての介護度で上昇傾向にある。

第9期高松市高齢者保健福祉計画(計画期間:2024~2026年度)

基本理念

高齢者が住み慣れた地域で希望を持って、
自分らしく安心して暮らし続けられる地域共生社会の実現

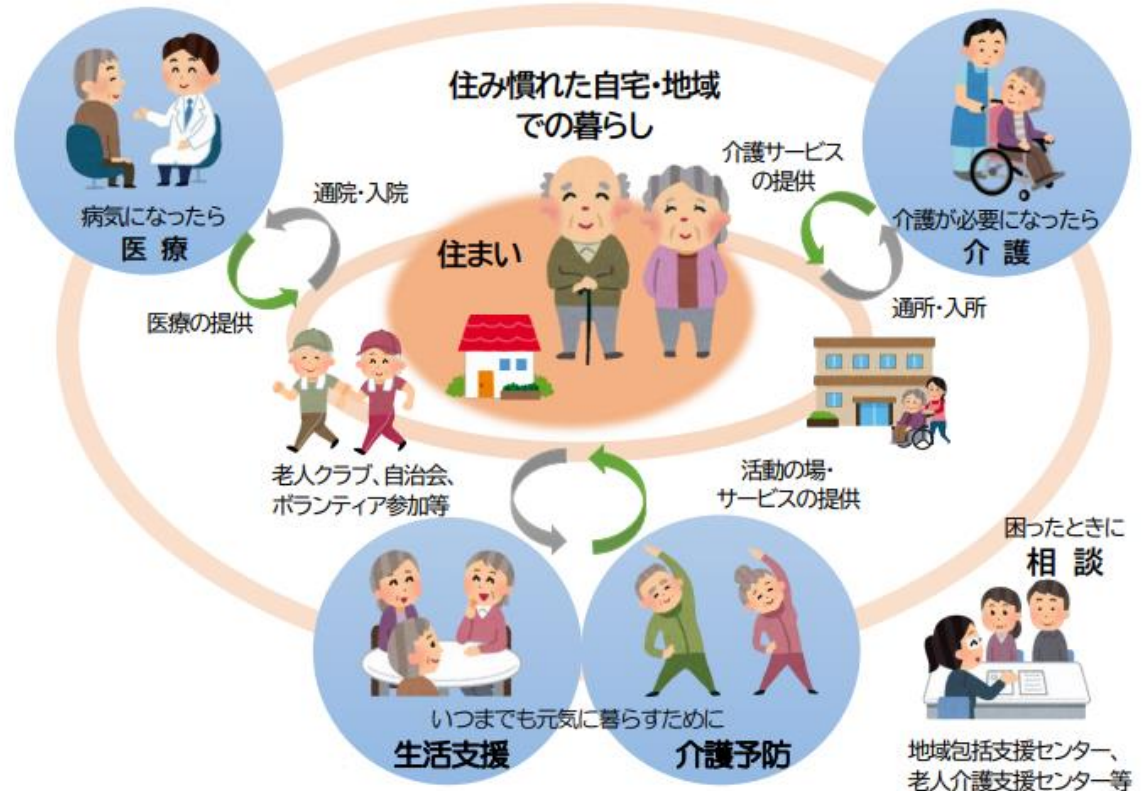
基本目標

自分らしい生活と
生きがいづくり

共に支え合い、
つながる地域づくり

安心して暮らし続け
られる環境づくり

地域包括ケアシステムの深化・推進

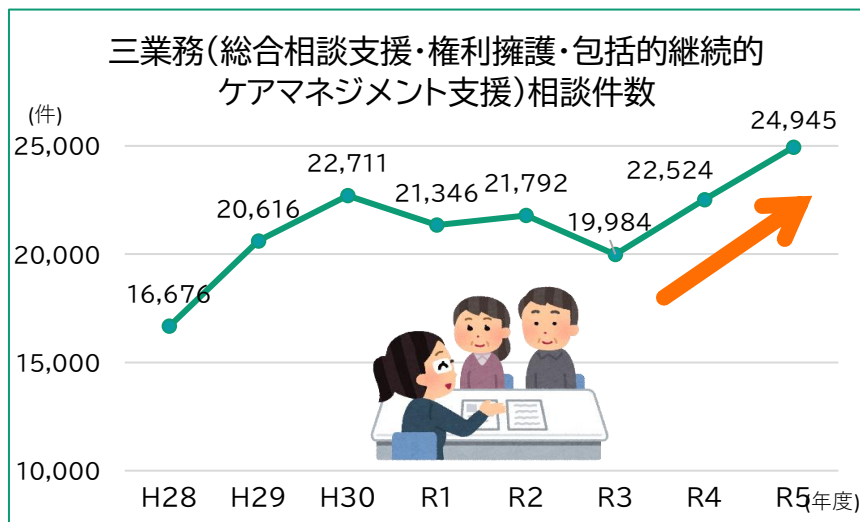


地域包括支援センターにおける役割と課題

地域包括支援センターは、地域包括ケアシステムにおける中核機関として、3職種(保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員)がチームで活動し、個別サービスのコーディネートを行うとともに、地域のネットワークを構築する役割を担う。

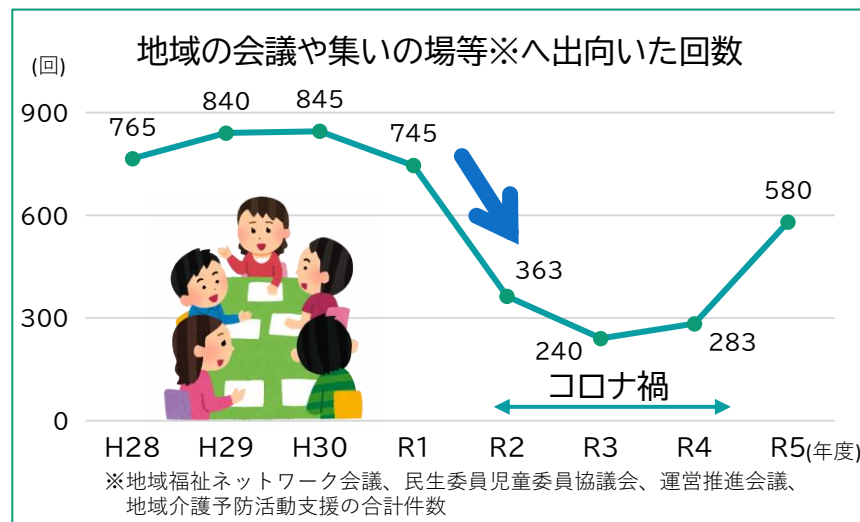
個別支援

高齢者に関する様々な相談を受け止め、適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的にフォローする。



地域包括支援ネットワーク

地域住民や多様な関係団体とネットワークを構築し、支援の必要な高齢者の早期発見・早期対応、協働が図れる体制を構築する。



個別支援の件数は増加傾向にある一方、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域との関係性は希薄に。地域包括支援センターとして、**地域とのつながりを再構築**し、**地域包括支援ネットワークを強化**することが課題。

【新規】3職種の地区担当制の導入

- 中央地区担当職員
- 
- A group photograph of seven staff members of the Central Region. They are arranged in two rows: three people in the back row and four people in the front row. The background is a light-colored wall decorated with large, colorful circular patterns, including a prominent red one with a face. The staff members are dressed in casual to semi-formal attire, including sweaters, a plaid shirt, and a dark jacket.

8

取組による変化・成果

地域ケア小会議(個別プラン検討)での変化

◆多職種参加型の個別プラン検討では、利用者の身体状態を改善するための検討に加え、**自立支援のためにどのような社会資源が必要か、既存の社会資源をいかに活用するか**について話し合う機会に。

個別プラン検討参加者：介護支援専門員、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、歯科衛生士、言語聴覚士など

Aさんは免許を返納してから買い物に困っている。

自分で選ぶということは食べる楽しみにも繋がる。



近所の方も独居の高齢者が多い。

Aさんの自宅前のスペースに移動販売車を呼べないか。外出や交流の機会になる。

地域住民と地域カルテを共有

◆地域福祉ネットワーク会議で、生活支援コーディネーターと協力し、地域住民と地域カルテを共有。

家族や友人との付き合いがある人の割合が95.2%と高い。

同じ圏域の他地区と比較して、物忘れなど認知機能の低下を自覚している人の割合が高い。

できるだけ自分のことは自分でできるよう、健康を意識している人が多い印象。

相談の傾向として、状態が悪化するまで支援を求めない人が多い...



香南地区では、地域の強みや課題について話し合い、**「おせっかいでつながるまち香南」**をスローガンに取組を推進している。

住民や専門職団体との関係づくり

住民や地域の医療・介護の専門職等と、日頃の交流や支援を通じて顔の見える関係を築く



1
住み慣れた地域で
安心して
暮らし続けられる
社会の実現

地域の実態の把握・共有

地域活動への参加や個別支援の中で感じる地域の実態や課題を把握し、住民や専門職団体と共有する



地域課題の解決に向けた協働

住民や専門職、多様な主体と協働し、地域課題の解決に向け、地域全体の連携体制を構築する

